

Doc. No.: NR060314

2006年3月14日

パッケージ印刷業界向けハイブリッドCTP装置を開発 ～オフセット印刷用CTPで培った画像処理技術をフレキシ、レタープレスに応用展開～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区)のメディアテクノロジーカンパニー(社長：垣内 永次)はこのほど、フレキシ印刷および樹脂凸版印刷(レタープレス)を用途とするCTP(=Computer to Plate)装置「PlateRite FX870(プレートライト FX870)」を開発しました。

商品の包装、容器、ラベルを印刷・加工するパッケージ印刷の一種であるフレキシ印刷は、近年欧米において、水性インキやUVインキを使用する環境に優しい印刷方式として急速に普及し、パッケージ印刷業界では、伝統的なオフセットやグラビア印刷業界に肩を並べるほどの市場規模に成長してきました。一方、フレキシ印刷と同様にパッケージ印刷の手法の一つであるレタープレスは、シールラベルや飲料缶の印刷手法として、主に日本国内のパッケージ印刷業界に定着しています。しかし、レタープレス業界は、欧米のフレキシ印刷業界ほどにはCTP化が進んでいないため、既にCTP化に成功している日本国内のオフセットやグラビア印刷業界のように、高品位でコストパフォーマンスに優れたCTP装置の普及が望まれています。

今回開発した「PlateRite FX870」は、このようなパッケージ印刷業界の世界的な動向に対応するもので、オフセット印刷用CTP装置として定評のある「プレートライト」シリーズで培った技術を応用展開し、フレキシ印刷とレタープレスの両方に対応するCTP装置となっています。「PlateRite FX870」は、従来の刷版(プレート)による手法と比較して、ハイライト部分の再現力が向上するなど、パッケージ製品の高品位印刷に大きく貢献。また、コストパフォーマンスに優れており、パッケージ印刷業界における設備投資の課題を解決できます。

当社は、今回の「PlateRite FX870」の開発を機に、製品ラインアップをさらに充実させ、さまざまなユーザーニーズに柔軟に対応し、パッケージ印刷業界の発展に寄与することを目指します。また2年後には、CTP化が進む欧米のフレキシ印刷業界においては20%、今後CTP化が期待される日本国内のレタープレス業界においては70%のシェア獲得を目標として、ソフトウェアや周辺機器を含めた総合的なソリューションを展開し、全世界のパッケージ印刷業界のリーディングカンパニーを目指します。

* この装置は、4月4日から11日までイギリス・バーミンガムで開催される「IPEX 2006」に参考出品します。

<国内希望販売価格(消費税別)>

1,800万円

<販売開始予定>

2006年9月

<年間販売予定台数(初年度)>

30台



PlateRite FX870

☆ この画像の印刷用データ(解像度300dpi)は、下記URLよりダウンロードできます。
(www.screen.co.jp/press/nr-photo/)

●本件についてのお問い合わせ先

大日本スクリーン製造株式会社 本社広報室：Tel 075-414-7131 Fax 075-431-6500 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目